広島都市学園大学
健康科学部保護者の会
会　報

こころ

第　17　号

【「こころ」の由来：広島都市学園大学の理念である「心技一体」の１文字からつけています。】

発　行　広島都市学園大学健康科学部保護者の会
発行先　〒734-0014
広島市南区宇品西五丁目13番18号
TEL　082-250-1133
FAX　082-250-1134

リハビリテーション学科卒業生とZoom対談

保護者の会副会長　藤本貴子さん

11月6日(土)リハビリテーション学科卒業生3名とZoomでの対談をされました。

案内役は、健康科学部保護者の会、副会長藤本貴子さん（作業療法学専攻3年生保護者）。

参加卒業生は次の三名です。

橋本彩花さん（2018・3卒）
リハビリテーション学科同窓会「新風会」会長。中国労災病院勤務。作業療法士。

上田英司さん（2018・3卒）
広島都市学園大学看護学科非常勤講師。広島県立広島特別支援学校の特別非常勤講師。重症児デイサービスにんじんの学校、重症児デイサービスかぼちゃの学校、重症児デイサービスパッチワーク、社会福祉法人泰清会、障害者生活支援センターあおぎり、株式会社新世コンソーシアム等勤務。ボッチャ協会理事。理学療法士。

安部瑞稀さん（2020・3卒）
戸畑リハビリテーション病院勤務。作業療法士。

◇◇◇

■学生時代を振り返ってどんな学生生活を過ごされましたか？アルバイトはいつごろまでされましたか？

【上田】
元々は設計の仕事をしていました。大手の会社にいて休暇が取れず、朝6時から夜中の2時まで仕事。家族との時間を大切にしたいとの思いから38歳の時に大学に入学。家族の協力を得ながら、仕事と学業を両立していました。現在、理学療法士と設計の会社とWワークをしています。

【藤本】
お忙しい毎日ですね。お休みは無い状況ですか？

【上田】
平日は10時から16時まで仕事をしています。広島県ボッチャ協会を立ち上げて理事として土日はその業務に携わっています。

【橋本】
学生時代はアルバイトを週に3～4日。平日と土日のどちらかシフトで、平日は授業後に夜11時まで、土日は日中や午後から夜まで。大学3年生の終わりまではアルバイトを続けましたが、評価実習中やテスト中はシフトを減らしてもらい休みました。

【安部】
3年生の終わりまでアルバイトは続けました。
1年生のときは縁あって紹介された医療関係の仕事を、平日授業終わりと土日にしました。3年生からは大学図書館で夜間のアルバイトをしました。

■学校行事で一番頑張ったこと。それによって自分の財産になったことは？

【上田】
1、2年で開講される「コミュニケーション技法」で三瓶での宿泊研修や大学祭イベントに参加しましたが、臨床実習で得るものが一番多かったですね。広島市民病院では1日5～6名の患者さんと関わりました。トータル18名の患者さんを担当しました。

【橋本】
私の場合は、行事というよりも4年間を通して先生方や在学生のみんなと積極的に関わったことかな。入学後オープンキャンパスにもボランティアで積極的に参加し、学生同士の横のつながりと縦のつながりを深めました。そういったことが同窓会の会長という役割につながったように思います。今思うと、頑張った大学生活だったと思っています。

■現在、同窓会は開いていますか。

【橋本】
2年前まで同窓会で研究会を開いていたんですが、コロナ禍の為、今はオンラインでの事例検討会を計画しています。大学の先生方に助けて戴いて同窓生に還元できるようにしたいです。

【安部】
入学直後は消極的な学生でした。4年生の謝恩会委員になったことは良かったです。学生時代の仲間は。作業療法士になるという同じ目標で繋がっています。何かあったときに苦しさや悩みを相談でき、一生の友達となりました。今も、遠くにいても電話で相談しあっています。

■実習のときにどんな準備や勉強をしたらいいか？アドバイスがあれば教えてください。
1、2年生はどんな準備したら良いですか？
3、4年生へアドバイスは？

【上田】
実習が最初からうまくできる人はいないと思います。最初の実習では、今なら10分でできることが3時間かかった。基本的な学校の勉強を実習で生かすためには、感謝の気持ちを持っておかないとうまくいかない。失敗して恥ずかしいのは当然なので、それに付き合ってくれる利用者さんに対して感謝の気持ちを持つことで、実習ではうまくいくのだと思います。

【橋本】
1、2年生は運動学、解剖学、生理学が医学を学ぶ上での基本となります。この3科目を、何となくでも良いので頭の中に入れておくことが必要。それは、2年生になって、見学実習後や評価実習に行ってみて、どういう繋がりがあるかわかりました。この3科目はとても大切です。
自分は勉強が得意ではなかったので再試ばかりで、担当教員に「僕のことが嫌いなのか」と言われたことも。（笑）

3、4年生なると比較的専門的な臨床に近い内容を学べます。実習に行くようになると、今まで習ったことを、実習にどう活かせば良いのかと考えるようになりました。
当時を振り返ってみると、実習に行く前には緊張しました。うまくいくか不安でしたよ。でも、自分が本当に作業療法士になりたいという思いに変えてくれたのも臨床実習だった。
実習中は〝作業療法士〟ではないので、スーパーバイザーの先生は知識や技術より、私たち学生が作業療法士になりたいと思ってくれるように指導してくださっています。

【安部】
勉強ももちろん大事ですが、臨床実習で、患者さんとうまく話せない学生もいるでしょうから、アルバイト等で色んな年代の人とコミュニケーションを学ぶことも大事だと思います。
解剖学・生理学の重要性が理解できていないときは、なんのために勉強をしているのだろうと思っていましたが、この3科目が理解できていないと臨床実習中も、患者さんが行き詰まっている原因がわからないままでいることになります。

■国家試験について、いつ頃から本腰をいれて取り組まれましたか？　試験対策の秘訣やこうすれば良かったなどあれば教えてください。

【上田】
基本は解剖・生理・運動学を勉強すること。自分でノートを作っていました３００ページぐらいは

作っていました。
　実習前や受験の年に、家族に不幸があり、本格的に勉強し始めたのは12月頃からです。あきらめない気持ちで頑張れたので合格できたのだと思います。

【橋本】
　基礎3科目解剖・生理・運動学は大の苦手でした。私も、臨床実習を終えて、その必要性がわかり、国家試験対策として基礎3科目の抜粋した問題を繰り返し解きました。
　専門科目も基礎3科目が理解できないと解けない。国家試験は後半からは理学と作業の共通問題でその3科目がベースになっていますし、前半の問題も、その3科目が理解できれば自然と点数が上がってくるものと思います。4年生になってから4人一組で自分が勉強したことを教え合うというスタイルを取りました。丸暗記でなく、根拠が分かることが重要で、今、臨床で患者さんとのリハビリでも根拠を示しながら説明が出来るので、大変役に立っています。良い勉強法だったと思います。

【安部】
　私も勉強が苦手で、結構、遅くから勉強を始め、QB（国家試験問題・解説本）を使い5回解きました。橋本さんと同じように数人のグループで教え合うスタイルで小テストや模試の解き直しなどを行いました。
　グループで勉強すると人より遅れているなどの進み具合がわかります。その分、個人で勉強する時間も取り、自分のペースでやることも大切でした。

■解剖・生理・運動学が大事で、それぞれ自分に合った勉強方法があるのですね。
　上田さんは卒業後に大学院へ行かれた理由は？

【上田】
　もともとは工学部の大学院に行く予定でした。卒業した後、結婚のため、就職しました。
　パラースポーツに興味がありましたので、理学療法士を目指そうと。卒業後もアルバイトをしながら、大学院で研究する道を選択しました。

【藤本】
　パラリンピックにトレーナーとして行かれたのですか？

【上田】
　ボッチャの代表選手のトレーナーをしていたのですが、コロナの関係で同行する人数に制限があり、会場には行けなかったのですが、関わった選手をパラリンピックに送り出すことができました。
　今も協会が受けた講師や大会の運営にも携わっています。こどもに「お父さんの仕事は何してるの？」と聞かれるのが困る。（笑）

■橋本さんや安部さんは就職活動はいつごろからされましたか？
　どういう基準で今の職場を選ばれたのですか？

【橋本】
　就職は資格を持っていれば就職はできますが、急性期、回復期、生活期の3種類がある病院か、小児か、など分野があり、それぞれ就職活動の時期に違いがあります。
　例えば、公的病院の広島大学病院、市民病院系列などは募集が早く8月末頃の第Ⅱ期実習中に募集が出たんです。総合病院に就職したいのなら6月末頃からHP等で求人を確認したほうがいい。
　回復期病院は何回かの就職試験の機会があります。自分は急性期で働きたいという希望があったので第Ⅰ期実習終了頃の6月頃から求人を探し、実習の休日を利用して見学に行くなど、実習と就職活動を同時に行いました。

【藤本】
　国家試験受験前に就職活動をされたということですか？

【橋本】
　内定先から、国家試験不合格の場合、採用できないとハッキリと言われていました。内定をもらえたので国家試験の勉強に打ち込めましたし、国家試験のモチベーションに繋がって良かったです。

【藤本】
　安部さんは県外の病院を希望されたのはなぜですか？

【安部】
　実習先が戸畑リハビリテーション病院の隣の施設だったので、この病院の人間関係やリハビリの内容など細かな情報が得られました。1年上のゼミの先輩が勤務されていて、色々な話が聞けたことが心強かったので、県外だけれど、この病院を選びました。
　実習先は老人保健施設でしたが、身障や回復期の分野で勉強したかったので、就職は回復期病院を選びました。
　就職試験は実習中の10月で、結果は11月頃でした。内定をもらえたことで、安心して勉強ができました。

【藤本】
　県外に就職で一人暮らしに不安はなかったですか？

【安部】
　大学の4年間は一人暮らしでしたので、また振り出しに戻ったようで最初は不安でしたが、先輩も居られたので、徐々に慣れました。今は楽しいですよ。

■仕事をする上で、大変だったりとか、やりがいとか教えて戴けますか。

【上田】
　ずっと小児リハをやっていきたいと思っていました。
　身体障害児・発達障害児の未就学児のリハビリを増やしながら、支援学校の高校生まで担当できるようになりました。長い子だと15年くらい継続して支援ので、日々の実践を海外の論文を読んだりしながら、自分の長所も仕事に取り入れたいです。感謝しながら謙虚に、自己研鑽を怠ること無く働いていくことが一番大事だと思います。

【橋本】
　急性期で働いています。最初は作業療法士として〝自分が改善してあげたい〟という思いでしたが、自分が休日の間に、患者さんの症状が改善していたという経験を何度もしました。
　これは急性期特有の状態で、本来人間が持っている回復力が働くからです。
　作業療法士は、理学療法士もそうだと思いますが、患者さんの手助けをする立ち位置なのだと思います。患者さんを回復させて自分が凄いではなく、患者さんを通して経験でき、自分が成長する。経験させて貰ってありがとうと思うことが、この職業において大切なことだと思います。

■現在、何人の患者さんを担当されてますか。

【橋本】
　勤務する病院にはベッドが400床ほど。作業療法士が7人しかいないので、入院患者だけで10～12人を担当しています。
　外来患者さんは7～8人になるので、人数としては多いと思う。安部さんの勤務先の回復期病院と違い、急性期病院は患者さん一人に掛けられる時間が少ないです。

【安部】
　大学時代は解剖・生理・運動学が頭から、知識でリハビリを頑張らなくてはいけないと考えていました。入職時は覚える業務が多く視野が狭くなりました。
　2年目になり、患者さんの人生を考えるようになりました。PT、ソーシャルワーカーや福祉用具事業者の方々の仕事内容も把握しておく必要があると、見方が変わってきました。
　回復期は急性期と違い生命維持できる方が多いのですが、回復しない方もおられます。認知症が進んでしまい、施設入所を考える必要が出てきます。麻痺が残ったことで気分が落ち込む患者さんに、入院180日、1日1時間のリハビリの中で、患者さんにどう寄り添えるだろうという壁に当たっています。

【藤本】
　壁に当たったとき、どうしたら良いでしょうね。

【上田】
　私の場合は子どもが相手なのでかわいい。楽しいリハ時間を過ごして欲しいですね。本人が『出来ていない』と思うことに、『こういう所は出来ているよ』と声を掛けてあげるだけでも良いとお思います。
　また、保護者とのコミュニケーションが大切ですし、わかりやすく説明することも大切です。子どもは楽しくないと向き合ってくれないので嫌われないようにしなくては。（笑）
　論文を読んだり、やりがいを見つけると、別のアプローチからの支援を見つけられるように思います。患者さんから貰うモチベーションもありますね。

■国家試験に合格して就職して終わりで無く、日々、勉強、頑張っておられるんだとよくわかりました。今後の目標を教えてください。

【上田】
　障害児としての支援は18歳までですから、社団法人のボッチャ協会を立ち上げました。スポーツを通して今後も触れ合っていきたいです。

【橋本】
　就職して未だ4年目なので、多くの患者さんとふれあい、疾患を学び経験を積みたいです。
　5年を過ぎると実習生への対応ができるようになります。
　母校の学生に自分が得た経験や、仕事の楽しさを、根拠を持って教えられる指導者になれたらと思います。

■職場の7人の同僚のなかで、経験年数的に何番目になりますか。

【橋本】
下から2番目です。後輩は、安部さんの同級生。広島都市学園大学卒業生は、私と後輩の二人。他は広島大学卒業生です。

【安部】
資格を取りたいです。何かを残したいと思います。担当の患者さんの人数は少ないですが、患者さんの背景を学び、治療だけでは無いところの作業療法士としての関わりを積んでいきたいです。
具体的には、認知症について学びたいので、認知症ライフパートナーという資格試験を受けようと思っています。

■コロナ禍で、大学でも合宿や大学祭が無くなったりしていますが、仕事や生活での変化があれば教えて下さい。

【上田】
感染するといけないので、1年半ほどはお酒を飲みに行っていません。
ボッチャの選手とは、抗原検査をしてから接していました。合宿でもトレーナーとして同行したので、飲みに行けないですね。

【橋本】
コロナ禍で変わったことは、様々な研修会に参加する際、これまでは交通費、宿泊費を掛けて現地に行かなくてはならなかったのですが、オンデマンド式での研修となり、とても参加しやすくなりました。

【安部】
コロナ禍では、感染予防のため、ご家族がお見舞いに来られず、数ヶ月も会えない方もおられました。
研修に関しては、休日に自宅から参加できるのが良いですね。

■後輩に、やる気が出るメッセージをいただけないでしょうか。

【上田】
社会に出て立派に仕事をされている先輩もおられます。苦手な科目でも聞いてほしい。自信をなくさないようにしてほしいです。

【橋本】
手厚い先生が多かったです。他校の卒業生の話を聞くと、本校は、先生との距離がとても近い。先生の力を借りて卒業したと、感じています。
臨床実習先で、担当してくださるスーパーバイザーは、ご自身の業務をしながら、私たちのような実習生のために時間を割いて、レポートも見て、その日のうちに評価もしてくださいます。
また、学生にあう患者さんを選んで下さったり、良い体験や学びを持ち帰って欲しいと作戦を考えて下さっています。大学の先生や事務の方々は、その実習先を一生懸命探して、打ち合わせや手続きをしてくださっています。
多くの方が関わってくださっていますので、自分だけで無く、支えて下さる方々のためにも、理学療法士・作業療法士になって欲しいです。

【安部】
作業療法士を目指したきっかけは、高校の担任の先生で、作業療法士→何かを作る→楽しそうだという漠然とした思いで入学を決めました。
それほど興味を持てていない中、いきなり解剖、生理、運動学に突入してしまい、悩みましたし、同じように悩んでいる同級生もいました。
私は、大学に行かせてくれた父を悲しませないためにも、とにかく頑張ろうと思いました。
徐々に分かるようになり、臨床実習で患者さんを担当してみて、面白いと思えるようになりました。患者さんと熱中できる何かをしてみたいと思えました。
何か一つでも面白いと思えるものが見つかれば良いと思います。やる気が出ない人でも、社会人になり働いてみると見つけられると思います。だからこそ、多くの視点を持つという意味で、大学で学ぶことは大事です。基盤があるとアイデアが出てきますから、今は漠然としているみなさんも頑張って欲しいです。私もポヤーとしながら勉強していましたが、今は仕事が楽しいです。

【藤本】
お忙しい中、ありがとうございました。

◇◇◇

藤本貴子副会長に対談を終えた感想をお聞きしました。

（事務局）
今回、2時間近くに渡り3名の卒業生の方々に色々な質問をさせていただきました。それぞれ勤務されている状況は違います。患者さんのことを考え、患者さんのためにと日々勉強され努力されているところに感銘を受けました。又、国家試験や実習、就職に向けてのご自身の体験やアドバイス等もたくさん伺いました。
ぜひ保護者だけでなく学生の皆さんにも読んでいただき、素晴らしい先輩方に続いて活躍して欲しいと思います。
お忙しい中、貴重なお話をたくさん聞かせて下さった卒業生の皆様、本当にありがとうございました。

「検索データベースポータルサイト」を導入しました

2020年10月に本学でも「検索データベースポータルサイト」を導入しました。このサイトは、図書館で契約をしている論文検索データベースや電子書籍などを学内にいるのとほぼ同様に学外からも利用できるサイトです。
これまでも、実習先でデータベースや電子書籍が使いたいという要望がありましたが、コロナ禍の中で遠隔授業が行われるようになり、学外から使えるようにする重要性が増したことがサイトの導入につながりました。
パソコン、タブレット端末、スマートフォンからも利用できるため、ちょっと調べものをしたい時にも便利です。
利用に際しては、図書館を通してユーザ登録が必要になりますが、図書館からの案内だけではなかなか全学生に広まっていないようです。ぜひ、保護者の皆様からも学習に便利なサイトがあるようだとお伝えいただければ幸いです。

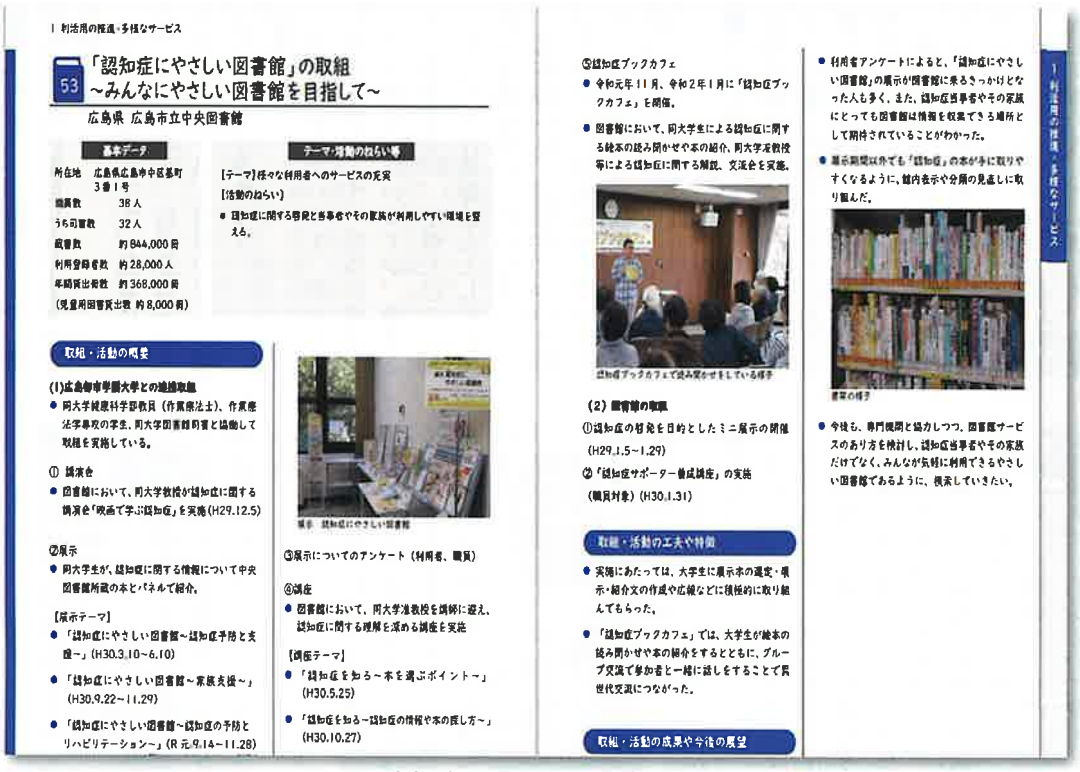
「認知症にやさしい図書館」の取組
～みんなにやさしい図書館を目指して～

認知症をテーマにした広島市立中央図書館との共同の取り組みは5年になります。
平成30年から広島市立中央図書館との共同開催で年1回、「認知症にやさしい図書館」を続けています。これは、公共図書館で『認知症関連の図書展示』や『認知症ブックカフェ』開催を通して、市民を対象とした認知症啓発と認知症者やその介護家族が集える場所をつくることを目的としています。
「認知症にやさしい図書館」は関東・関西で広がりをみせています。そのような状況下、広島市立中央図書館の特色は、本学リハビ

リテーション学科理学療法学専攻と作業療法専攻の学生有志が企画・運営していることです。これは全国的に珍しく、厚生労働省と文部科学省のホームページで紹介されています。令和2年度はコロナ禍で連携事業は縮小しましたが、今年は認知症ブックカフェを再開しました。

大塚地区の諸機関との協働

「認知症にやさしい図書館」が市民から好評を得て、それを耳にした西風キャンパス周辺の自治体との連携も始まりました。なかでも、市立大塚公民館、大塚・伴南学区社会福祉協議会、戸山・伴・大塚地域包括支援センターと共同して「認知症の人にやさしいまちづくり」を目標に、数年間かけて講座やイベントを開催することになりました。令和3年3月に大塚公民館に「認知症にやさしい図書コーナー」を設置して、認知症関連の講座を開催しました。



文部科学省ホームページから

遠隔講義システムを整備します

本学宇品キャンパスと西風新都キャンパスを繋いだ遠隔講義システムが整備されます。

これにより看護学科とリハビリテーション学科で一緒の授業が出来ます。同じ医療に進む者同士が、看護職とリハビリ職の学生が一緒にチームで学ぶことが可能になります。整備後のシステム試験を経て教育レベル向上のためのカリキュラムやシラバスの検討がされます。

本学学生が他大学の授業をその大学に行かなくても単位互換制度で受講することや、本学が遠方の他大学に向けて単位互換授業を提供することが可能となります。これには200人程度の他大学の学生受講が可能となると予想しています。

また、教員が授業内容・方法を改善し、教育力を向上させるための合同FD研究会（具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができます）を他大学と一緒に開催する計画もございます。

高校生向けの高大連携は毎年、教員が高等学校に出向く授業を行うものと、高校生が大学に来て受講するものがあります。しかし、広島県北の高校生が広島市内の大学に出向くには遠距離となりますから、満遍なくこういった授業を行うことはできません。文部科学省が進めていますギガスクール構想が広島県内でも進んでいますので、高等学校で整備が整えば、高大連携のための授業や特別講座を距離に関係なく開催し、高校生が入学前に看護学やリハビリテーション学を学ぶ機会を得ることができます。

リハビリテーション教育評価機構による認定審査を受けました

リハビリテーション教育施設の教育の質を保証するため、リハビリテーション教育プログラムの公正かつ適正な評価を行い、その教育施設の優れている点や課題を明らかにします。審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた教育施設に対して認定証が発行されます。リハビリテーション学科は5年前の平成28年に初めての認証評価を受け、翌年4月1日から令和4年3月31日までの認定を受けました。今回は令和4年4月からの認定を受けるための審査です。理学療法を7月に、作業療法を8月に審査書類を提出し、11月2日が理学、11月5日が作業の実地審査が行われました。前回の5年前は審査員が来校されての実地審査でしたが、今回はコロナ禍のため、Zoomによる遠隔会議方式で行われました。

平成30年に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が変更されましたので、その変更に沿った内容での審査基準となっています。令和2年度からの入学生がこの変更による授業を受けています。理学療法・作業療法評価学に「画像評価を含む」とされ、基本的・応用的動作や歩行の動画が含まれた授業になっています。前回には無かった【自己点検評価】がこの審査に追加されたのは、文部科学省が教育研究基準の向上を重要視する姿勢の現れです。

保護者の会助成費をお渡しします

1月下旬以降に学年毎に交付する予定です。金額は交付時に事務局から学生に伝えられます。加えて、総会でお認め頂きました会費納入者一人あたり五千円と、開催されませんでした大学祭への援助費予算から一人千円を、1年生を含む会費納入者全員にお渡しします。